

木と言う文字についてプロの材木屋として考えました。

森 →1本の木を取って→林

森から循環可能な量（育成量）だけを伐採するのが、1本の木を取る意味だろうと小生は解釈しています。完全な拓伐と言う方法です。この考え方に近いのがアメリカ東海岸の農家が持っている森から必要な成長木だけを伐採する方法です。

〇〇林業(株)と言う名前の会社は有るが〇〇森業と言う名前の会社は無い。

森を開発する仕事をする方の名前を林業と言う名称で呼びます。又その方は植林事業も行っていますが森と林と何が違うのでしょうか。

木を植えることを植林と言いますが、その仕事は林の形成を意味しています。人間が林を森にする事は可能か。多分植林した木では無理だと思います。

北海道の知床で昔開拓したが、現在は荒れている広大な土地を元の近い森に返そうとしている一人の方が頑張っているテレビ番組を7月中旬に見ましたが、当初は人間の力で植林はするが、有る一定の大きさの林に戻った後は自然の論理で森に返そうとしている様に番組を見て小生は感じました。

林 → 木を林に乗せて森にする事は自然の力以外は無理だろうと小生は思います。

林の上に大きい木が乗って森です。

この意味は多分下の林の木は針葉樹、上の大きい木は広葉樹だろうと思います。

富士山が世界文化遺産に指定されました。その富士山を観察すると噴火が起こり溶岩が多く流れた所へは、最初に針葉樹が繁茂します。それは表土の浅い所で育つ林を形成します。そして100年200年単位に時間が経過します。すると時間の経過『落ち葉等の堆積物等が溜まったりして次第に表土の厚みが出来て』が有って広葉樹を生み出す土壌を育てます。そして広葉樹が繁茂して美しい森になるのです。これが自然の法則だと聞いています。

人間が出来る仕事は林を作る事しか出来ないのです。森と言う生き物は人間が作れないのです。その証拠は正しい食物連鎖が行われているかどうかで理解出来ます。例えば北海道の森では、一番上に君臨するのは人間ではなくヒグマです。そして一番下は微生物だろうと思います。それが全て上手いこと循環して自然が形成されるのです。漁業・農業等もそれらの恩恵を受けているのです。昔で言えばニシンが北海道で多く成育していた頃は北海道の森も多くのニシンを育む栄養素を川に放出していた事は間違いない事実だと思います。現在の北海道の沿岸漁業が大不振に陥っている一つの原因は北海道に森が無くなって林ばかりになったと考えるのは考えすぎでしょうか。

小生の考え方と言うか森から見た木の考え方は、正しい森を使う方法はただ一つしかないと考えます。其れは森を絶対に林に転落させないこと。其れには伐採量の大幅な削減しかないのです。事実この事を北海道の森は実行しています。それがカツラ材の単価の暴騰に繋がっています。

この方法は値段は需要と供給のバランスで決定される。資本主義の正しい原則です。

高い価格を提示した購入者以外は買えないし、正しい使い方をしている方以外はその貴重な材は扱えないようになっている。それが材木屋の考える森の法則だと小生は思います。

会社売却・廃業・倒産

いきなりのタイトルで今月号の記事を書きますが、ここ1カ月間に小生の周りで起こった事態と言うか事象です。この3つのフレーズは人間の作った会社と言う名称の組織の最後の局面を表現している。

この記事にはプライバシー及び守秘義務の問題が存在し具体的な会社名・個人名は入っていませんが事実です。そしてこの記事を書きたくなった動機は小生が服部商店の後継者を考える時期に来ていることが関係しているのかも知れません。

最初に会社売却と有りますが、この方法を取られたのは、材木屋のあり方から販売方法、取り扱い商品、お客様等々の構造改革を大胆に進めこの不景気でも十二分な収益が上げられる会社に仕上げた小生の尊敬する社長が最近された行動です。この行動の裏に子供達が全く自分の事業に興味がないのでこの方法が良いのではないかと言う判断で会社を売却しましたと仰っていました。

この方法が経営者から見て、良いのか良くないのか『家族達を含む一つの家として考える場合』と言う事に対するコメントはあえて小生はしません。と言うより仮に小生の男の子供達（23歳の大学院生・13歳の中学1年生）が小生のしている服部商店と言う意味ではなく木材に携わる仕事を全くしてくれない場合、会社売却が経営者にとって正しい方法（従業員全員を含む全ての事業）ではないかと思えます。

廃業と言う方法は小生の仕事場の周りではなく自宅の回り（住宅街）で多く起こっています。原因で多いのが外部環境の劇的な変化についていけず、この方法を選択するのが一番多いと小生は想像しています。

具体的に言えば小生は大阪市住之江区の安立地区が生活の中心です。日々の生活にはお米屋さん・お肉屋さん・果物屋さん・等々が有ります。小生の家族は日々利用させて頂いています。小生にはこう言う地域密着型の商売は余り景気の動向に関係しない様に思えるのですが、そうでは有りませんとお世話になっている各小売り店のオーナーさんは仰っていました。

安立地区も30年前から較べると30%近くの人口が減少しています。この事も商売が立ち行かなくなっている原因だと想像できますし、周囲半径1キロ圏内には多くの大型小売り店舗も存在しています。又後継者の問題も有り、今事業を止めた方がまだ多く残っている資産を子供達に残せるので廃業と言う選択をするのが良策ではないかと小生には思えるのです。

倒産と言う現象は法的な処理をすると言う意味だろうと思えます。この倒産には正しい倒産と悪い倒産が有るのは解かっていますが、今回はその話はしません。

倒産と言う言葉に小生の考えるキーワードは、資産と負債とのバランス感覚です。身の回りで聞く話ですがお金が有るから会社売却と廃業は出来るのです。お金が無いからその2つの方法が取れずズルズルと最後は倒産するのですよ、と聞くのですが、よく考えて下さい。商売とは何らかの利を得るのが本来業務です。損をするのは商売では有りません。儲からなければ他人の迷惑にならないよう倒産と言う手段に至らないようにすべきだと小生は思えます。

ところで今年の10月14日は小生の55歳の誕生日です。父親の死んだのが72歳ですのでもう17年しか有りません。というよりばりばり働けるのは後10年だと思えます。

これからの10年間で成し遂げたいと思う事は後継者の問題です。もし小生の子供達が服部商店の事業をしない場合、第三者を含めて新しい経営者を作るのが一番の大きな宿題だと思っています。

本当に難しい仕事

今年は昨年から為替変動が急激な為に一昨年より多くの原木を製材しましたが、昨年以上に製材では苦勞しました。

ナラ材の事で具体的にお話を進める為に整理します。

- 1、 ロシア産ナラ原木の入荷が遅れた、又昨年比大幅に入荷が少なかった。
この事実の確定は今年の5月末でした。北海道の市が全て終了して1年間の行動『昨年の9月から今年の5月までに集荷した材の合計数量と本当に正しい単価で購入したのか。と言う判断。又買いすぎていないのか。と言う疑問等々あくまで最後から見てしか解からない小生の行動』が正しかったのかどうか確定する。
- 2、 ロシア産ナラ原木の代用の為にホワイトオーク材を昨年製材しましたが、この結果『服部商店の製材方法と管理方法が正しかったと言う証明』が確定したのは今年の5月初めでした。

1と2の事を物事が確定して後から考えたりする事は全く簡単です。評論家なら誰でも出来ますが、現在の材木の世界的な優良資源の枯渇の状況を考えると、結果と言うか、結論が出る前に日常的に物事を前に進めながら新しい取り組みをしなくては、材木屋は生きていけないようになってきていると考えるのは間違っているでしょうか。小生は今の取り組みは当たり前的事をしているだけであり何にも大した事ではないと思っていますが、それでも6月の梅雨時期には落ち込んだりします。それでも自分に自分で当たり前的事をなさいと言い聞かしながら自分のモチベーションを高めようと行動しています。

材木屋は材を持って幾らの商売です。材が無かったら、御客様から見れば魅力は無いのは当たり前です。御客様から見て大事なものは、良質材が入手し易い事は、当たり前のも絶対条件です。価格が安いのは良いに決まっていますが、これは需給バランスで決定されることです。

血と汗の結晶の服部商店の倉庫及び工場



服部商店の工場も半年前と較べるとかなり変化してきていると思います。是非ご近所まで来たら訪問してください。宜しく御願います。お値打ち商品が山の様に有ります。

消費者目線で見易い工場倉庫にする仕事も大事な事だと思います。

絶対と言う意味

絶対と言う文字の意味は、二度と日本では福島第一原子力発電所の同等の事故を起こしたら駄目だということです。これには日本の国民は全員賛成だと思いますし、その目線で価値判断をするべきだと思います。

小生は自民党でも民主党でも公明党でも維新でも共産党でも有りません。従って原子力の先々の事をどうするべきかと言う議論をするつもりは有りません。知っていただきたいと思う動機は関西電力高浜原子力発電所の立地がどんな所なのかと言う事実関係だけです。

下の写真は高浜原子力発電所の前のトンネルの入り口です。高浜原子力発電所の正面玄関です。



高浜原子力発電所は山と海に囲まれた狭い土地に立地しています。



高浜原子力発電所 1号機・2号機



高浜原子力発電所 3号機・4号機



沖合い10キロに有る冠島（上陸禁止になっている）冠島を悠々と泳ぐ60センチのマダイ
経済とはあくまで健康で最低限度の生活が出来ての話であって、人の安全が有って経済だと思っています。小生が原子力に反対の立場だと言いたいのでは有りません。もし高浜原子力発電所が確実に安全だと言うのなら、それなりの設備・施設・公共設備等の向上が有って当たり前だと思いますが、2011年3月11日以降毎年ここにダイビングに来ていますが、目に見えて防波堤の増強工事だとか予備の緊急用のトンネルの掘削工事が行われた等の事は小生の知る限り行われていません全くゼロの状況だと思います。